

高レベル放射性廃棄物の
処分は日本全体の課題



大切なことだから

子どもたちにも分かりやすく伝えたい



この人に
伺いました!

Profile

原子力発電環境整備機構
(NUMO)
広報部 教育支援グループ
門馬 ももさん

2020年4月入構。大学では震災社会学のゼミで東日本大震災についての若者の意識調査を行った。入構半年で出前授業デビュー。現在は後輩の指導も担当。

“持続可能な社会”に関心が集まる今、考えるべき大切な社会課題である「地層処分」。NUMO(原子力発電環境整備機構)で最前線に立ち、その重要性を次世代を担う学生たちに伝える門馬ももさんにお話を伺いました。

学生たちに「地層処分」を伝える。出前授業を担当

原子力発電については幼い頃から関心があったが、NUMOという存在や放射性廃棄物の地層処分については、就職活動の際に初めて知ったという門馬ももさん。

「NUMOの会社説明会に行ったときに、日本で唯一だなんてカッコいいな、すごく使命感のある仕事だな、と思いました」

現在、広報部教育支援グループに所属し、主に中学校・高校・大学の学生に地層処分の基本を教える出前授業を担当。企画か

ら構成、授業の講師まで、入構2年目にしてすべてを受け持つ。「原子力発電に伴って発生した高レベル放射性廃棄物をどう処分するのかは、日本全体の課題。調査から建設、操業、閉鎖まで100年以上を要する事業でもあり、10代から基礎的な情報に触れることは、大人になってこの課題を考える上でも大いに役立ちます。実際の教育現場で地層処分の話をさせていただくことは、とても重要な仕事だと感じています」

難しいテーマだが、子どもたちの関心は意外に高い。「授業が終わったあと、「最初は拒否反応があったけど、先生の話が面白かったからよくわかったよ」と女子中学生が駆け寄り寄って来てくれたこともありまして。全国にはより深く知りたいと、「地層処分」について自主的に学ぶ学生もいます」

若手のやる気と活躍を促すサポート体制が整う職場

入構2年目ながら責任感を伴う仕事を任される門馬さんだが、入構以来、充実した毎日を送る。「幼い頃から人前に立つことが好きなので、強みが生かされていると思います。職場環境もとてもいい。ワークライフバランスが充実しています。平日の就業後にも趣味のバレーボールに行ったりと、オンとオフの切り替えがしつかりできています」



「地層処分」について自主的に学ぶ学生も

エネルギー教育に熱心な学校では、学習団体や他校の生徒も参加する地層処分に関する学習イベントも企画・開催している。NUMOが講師を務めることもある。



学生に合わせて出前授業をアレンジ

出前授業は、相手先の学校の先生と話し合いながら授業の方向性を決め、1~2カ月かけてその学生に合った内容を考えていく。

Let's Study!

日本だけでなく、世界各国も地層処分に取り組んでいます

高レベル放射性廃棄物の地層処分は、原子力を利用してきたすべての国に共通する課題。フィンランドとスウェーデンではすでに処分地が選定されています。

